

新 春
座談会

目指せ! 推進技術の次なるブレイクスルー

女性技術者編



鉄建建設エンジニアリング本部
土木技術部課長代理

岩沢理恵

日本水工設計㈱東京支社
下水道二部設計課課長

山元裕美

㈱東京設計事務所東京支社
下水道グループ下水道第1チーム

北川侑瑛

国土交通省水管理・国土保全局
下水道部流域管理官付企画専門官

阿部千雅

(独)国際協力機構地球環境部
環境管理グループ環境管理第一課

内藤初夏

東京都下水道局中部下水道事務所
建設課設計第一係主任

落合志穂

下水道の分野で活躍している女性の土木技術者が集まり、「次なる社会が求める“推進技術のブレイクスルーの芽”」のヒントを探ります。「女性土木技術者」といっても、仕事の上で女性・男性ということを意識することは少ない私たちですが、ふと気づくと「これはひょっとして“女性ならではの”のかな?」という経験をしていることがあります。

そこで、女性の技術者として、推進技術も含めた社会資本整備に関わる仕事にどのように取り組んでいるか、何を感じているかといった切り口から、今の社会資本の作り手に足りない視点は何か、について語り合ってくださいました。そのエピソードの中から「推進技術のこれから」に向けたメッセージを見つけられればと思います。

社会資本の作り手として

阿部：国土交通省の阿部です。旧建設省に土木職で入省してから、主に下水道行政や地域づくり行政に関わって参りました。入省当時はまだ周囲に土木職女性はいなくて、今日のように女性の土木技術者だけで集まることはなかなか難しかったものですから、このような機会を作っていただけてとてもうれしいです。今日はよろしくお願いします。

社会資本は、多様な人々の生活を支えるものです。それなら、計画する側、整備・管理する側にも、使う側に合わせた多様な視点が必要だと思うのです。そういう意味では社会資本の作り手としての土木の世界こそ「女性が当たり前にいる」分野であるべきかもしれないのに、以前に比べかなり改善されたと

出席者（敬称略）

〔進行役〕 阿部 千雅：国土交通省水管理・国土保全局下水道部流域管理官付企画専門官
落合 志穂：東京都下水道局中部下水道事務所建設課設計第一係主任
内藤 初夏：(独)国際協力機構地球環境部環境管理グループ
岩沢 理恵：鉄建建設(株)エンジニアリング本部土木技術部課長代理
山元 裕美：日本水工設計(株)東京支社下水道2部計画課長
北川 侑瑛：(株)東京設計事務所下水道グループ下水道第1チーム



あ べ ち か
阿部 千雅

国土交通省水管理・国土保全局
下水道部流域管理官付企画専門官

社会資本の作り手として 土木の世界こそ「女性が当たり前にいる」 分野であるべきかもしれないのに現実はい

はいえ、まだまだ女性の割合は低いように思います。

今日お集まりいただいている皆さんは、社会資本の女性ユーザーであると同時に、下水道を含む社会資本にかかる計画、整備、管理などの業務に関わってこられた技術者であるわけですね。そこでまず、社会資本について日々感じておられることについて、自己紹介を兼ねて語っていただければと思います。よろしくお願いします。

よいものづくりに対しては
女性も男性も同じ
人への思いやりが大切

落合：東京都下水道局の落合です。平成17年に東京都に入都し、今日までに水道局および下水道局において業務に取り組んできました。主に、水道施設の計画策定や下水道管路の維持管理等に携わり、現在は、下水道管路の設計を行っています。

近年、女性技術者も増えてきており、日頃「女性」ということを意識することはあまりないので、今回、この座談会のお話をいただいたとき、正直、私は「女性」というカテゴリーを作って座談会をする目的を考えてしまいましたね（笑）

「女性」ならではの視点というのを求められていると思ったのですが、よいものを作りたいという点というのは男性も女性も同じだと思うんです。ただ、男性と家事分担をしている家庭が増えてき

ているとはいえ、これまでの女性の生き方の変遷から、どちらかといえば女性の方が生活に対する意識があるのかなと思います。工事現場等において、買い物や育児におけるベビーカーに配慮することはその一つといえます。

一方で、女性ならずとも、人への思いやりをもってこそ、関わるあらゆる人々はもちろん、高齢者やけがをされている方などにも配慮した、よいもの、よい現場が生まれるのではないかと思います。ちなみに、女性であれば、ヒールがマンホール蓋の穴にはまるということ一度は経験したことがあるかと思うのですが、この点に着目をされている男性がいらしたときには感動しました。

子どもや孫世代等を考えた、
長期的・広域的な視点

山元：日本水工設計(株)の山元です。入社以来、東京支社にて下水道計画の業務に携わってまいりました。近年は、下水道整備のみならず、都市計画等と合わせて下水道が成すべき中長期的の方向を決めるものとして、下水道ビジョン策定というものに携わらせて頂く機会も増えているのですが、これを決定するために、下水道事業課のみではなく、有識者や市民から成る下水道審議会を通して策定していくんですね。その下水道ビジョン策定審議会に同席させて頂きながらビジョンを策定していったことが

あるのですが、この中で、暮らし（下水道普及）・安全（地震対策や施設老朽化対策）・環境（水質改善）・経営（持続的安定経営）という様々な課題をクリアしていくためには、コスト縮減といった下水道事業者側の努力と共に、使用料の見直し（値上げ）という議論がどうしても避けられなかったんです。そういった中で、商工会代表の方などはどうしても、産業経営の視点で、値上げは反対となるのですが、女性審議委員の方々は、自分の子どもたちの時代に快適で安全、良好な環境を残してあげたい、そのために必要な経費ならば親世代が負担するべきではないか、というような意見を出して頂いたんです。こういった考えが女性ならではの分かりますが、一家の主として経営的な面を主に担っている男性と、家庭の平和・健康、子どもの成長を主に守っていく女性との視点の違いなのかな？と感じました。

私は水環境のコンサルタントという民間会社に務めているのですが、会社の長期的経営視点を持った戦略的行動などのハード的部分は、やはり、男性の能力は高いと感じることが多々あります。一方、女性の場合は、自治体や市民、社会といったサービスの受け手側の立場を考えながら、“水に携われて、社会の役に立つ仕事がしたい！”というような、この世界に足を踏み入れた時のピュアな気持ちと理想を持ち続けなが